

2024年7月

猫ワクチンセット Vセットの検査内容変更のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご愛顧を賜わり、厚く御礼申し上げます。さて、この度、下記のとおり検査内容を変更させていただくことになりましたので、ご案内申し上げます。

敬白

記

■変更項目および変更日

【変更日】2024年7月16日（火）受付分より変更

1. FCV（猫カリシウイルス）と FHV-1（猫ヘルペスウイルス1型）抗体検査の測定範囲変更

現在のFCVとFHV-1の抗体検査では抗体価として100～51,200倍の範囲、12段階でご報告しておりますが、両検査とも以下の範囲（6段階）を測定できる検査系に変更させていただきます（8段階でご報告）。

・FCV 200～6,400倍、FHV-1 100～3,200倍
（参考；効果判定抗体価 FCV \geq 800倍、FHV-1 \geq 400倍）

近年の検査コストの上昇に苦慮しており、検査料金を据え置きとするためこのような対応を取らせていただくこととなりました。なお、この変更によるワクチン効果判定への影響はございません。

2. FCV抗体検査の検査方法変更

これまで、FCVはIP法で抗体検査を実施しておりましたが、ELISAに変更させていただきます。なお、本法での結果は現行法と一致度が非常に高く、変更による検査値の差異について考慮する必要はございません。

3. FPVについては検査方法ならびに抗体価の表記に変更はございません。

検査項目名	項目	検査材料	送付方法	所要日数	検査方法
猫ワクチン セット Vセット	FPV抗体 FCV抗体 FHV-1抗体	血清(血漿) 0.1mL	常温 冷蔵	5日以内	FPV:HI FCV:ELISA FHV-1:IP

株式会社エム・エル・ティー お客様センター
TEL：072-753-0335、E-mail：support@m-lt.co.jp

猫のワクチン効果判定検査

大阪ラボ

●ワクチン効果の判定のための検査です。

検査項目名	項目	検査材料	送付方法	所要日数	検査方法	検査項目の説明、注意事項
猫ワクチンセット Vセット	FPV抗体 FCV抗体 FHV-1抗体	血清・血漿 0.1mL	常温 冷蔵	5日以内 ※1	FPV:HI FCV:ELISA※2、※3 FHV-1:IP※2	<ol style="list-style-type: none"> 1.感染診断に利用できません。 2.FCVとFHV-1 ワクチンは基本的に発症を軽減するもので(相対的防御)、十分なワクチン効果を得られていても感染により症状を呈する場合があります。 3.裏面の【結果の解釈】は一般的なものです。特にFCV、FHV-1、FPVでワクチン接種が必要と考えられる場合はワクチン会社にお問い合わせ、またはワクチン会社発行の技術資料を参照の上ご判断ください。
FPV HI抗体検査		血清・血漿 0.1mL	常温 冷蔵	4日以内 ※1	HI	
FPV 中和抗体検査		血清・血漿 0.3mL	常温 冷蔵	14日以内 ※1	中和試験	<ol style="list-style-type: none"> 1.弊社VセットまたはFPV HI抗体検査でFPV抗体価が10倍または10倍未満の場合のみFPV中和抗体検査を実施させていただきます。 2.HI抗体価20倍以上の例およびFPV中和抗体検査のみについては受付できません。 3.基本的に検査材料は弊社に保存しているものを供試いたします。

※1：弊社受付日を0日とした営業日換算(土、日、祝日、弊社指定休日を除く)

※2：2024年7月より抗体検査の測定範囲を変更いたしました。

FCV 100倍～51,200倍の範囲、12段階でのご報告 → 200倍～6,400倍の範囲、8段階でのご報告

FHV-1 100倍～51,200倍の範囲、12段階でのご報告 → 100倍～3,200倍の範囲、8段階でのご報告

なお、効果判定抗体価は FCV ≥ 800 倍、FHV-1 ≥ 400 倍であり、この変更によるワクチン効果判定への影響はございません。

※3：2024年7月よりFCV抗体検査の検査方法を変更いたしました。

IP法 → ELISA

なお、ELISAでの結果はIP法と一致度が非常に高く、変更による検査値の差異について考慮する必要はございません。

【結果の解釈】

16週齢以上			
FPV	FCV	FHV-1	コメント
20未満	400以下	200以下	ワクチン効果が十分とは言えません。
20～40	800～1600	400～800	ワクチン効果が期待できる抗体価です。しかし、長期間の効果を期待するにはもう少し高い抗体価が望ましいでしょう。1年後にワクチンを追加接種されるか、抗体検査を実施されることをお勧めします。
80以上	3200以上	1600以上	長期間のワクチン効果の持続が期待できる抗体価です。

12週齢			
FPV	FCV	FHV-1	コメント
20以下	400以下	200以下	ワクチン効果が十分とは言えません。
20	800～1600		移行抗体の可能性があります。可能であれば、ワクチンの再接種をお勧めします。
40	3200～6400	400～800	ワクチン効果ありと判断できる抗体価ですが、移行抗体の可能性も否定できません。1ヶ月後の再検査をお勧めします。 (移行抗体は1/4程度に低下します)
80以上	12800以上	1600以上	長期間のワクチン効果の持続が期待できる抗体価です。

FPV、FCV、FHV-1の各月齢における移行抗体との区別にはワクチン接種済みの健康猫100頭の抗体価を測定し、そこで得られた最高の値をもとに移行抗体の半減期から算出したデータを利用しています。

- ごくまれに基準値を上回る血中抗体価であっても、ストレスや、ステロイド剤や免疫抑制剤の服用により防御が十分働かないケースがあります。また、もし将来的に流行ウイルスが変異することがあれば、既存のワクチンでは十分な予防効果が期待できなくなる可能性も否定できません。
- 弊社がご提供している基準値は、過去に研究者たちが提唱した値を参考にして最も妥当と考えられる値に設定されています。また、本基準値は弊社の検査系に対するものであり、他社の検査結果には適用することができませんのでご注意ください。

FPV HI抗体検査およびFPV中和抗体検査

【結果の解釈】

コメント		
FPV HI抗体検査	20未満	ワクチン効果が十分とは言えません。
	20～40	ワクチン効果が期待できる抗体価です。しかし、長期間の効果を期待するにはもう少し高い抗体価が望ましいでしょう。1年後にワクチンを追加接種されるか、抗体検査を実施されることをお勧めします。
	80以上	長期間のワクチン効果の持続が期待できる抗体価です。
FPV 中和抗体検査	32以上	現時点で防御可能な抗体価です。しかしながら、FPV HI抗体検査または猫ワクチンセット Vセットで不十分な抗体価であったことから、1年以内にワクチンの追加接種または抗体検査(まずはHI抗体検査)をお勧めします。

- ごくまれに基準値を上回る血中抗体価であっても、ストレスや、ステロイド剤や免疫抑制剤の服用により防御が十分働かないケースがあります。また、もし将来的に流行ウイルスが変異することがあれば、既存のワクチンでは十分な予防効果が期待できなくなる可能性も否定できません。
- 弊社がご提供している基準値は、過去に研究者たちが提唱した値を参考にして最も妥当と考えられる値に設定されています。また、本基準値は弊社の検査系に対するものであり、他社の検査結果には適用することができませんのでご注意ください。